

報道関係者 各位

令和6年11月8日



一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会

第9回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入賞作品発表 **最優秀賞は板木光輝さん（鹿児島県・高校1年）**

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会（代表理事＝宮島俊彦）は、このほど、第9回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施いたしました（協賛：一般社団法人福岡市老人福祉施設協議会）。将来を担う中学生、高校生に、介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する機会をもってもらうことを目的に、令和6年6月3日から9月9日にかけて作品を募集しました。

全国より応募総数464編の作品が寄せられ、黒澤貞夫審査委員長（日本生活支援学会会長／浦和大学名誉教授）のもと、厳正な審査を行った結果、別紙のとおり入賞作品が選出されたので発表いたします。

入賞者には本会より賞状を贈呈いたします。

黒澤貞夫 審査委員長のことば

この度は、全国の中学生、高校生の皆さん、作文をお寄せいただきありがとうございました。どの作文も介護福祉に対する自分自身の思いや考えがしっかりと表現されており、素晴らしいものでした。

日々の家庭生活や学生生活のなかで自分が経験したことを作文として表現するために、さまざまな思いや感想をもって取り組んでいる皆さんの姿がよく伝わってきます。作文の中には、相手を気遣って思いをめぐらすことや、介護の学習をしていくなかで自分が感じたさまざまなことが表現されていますが、これらは介護の原点になります。皆さんの作文から、こうしたことを大切にしながら、さらにより良い学習をめざしていく様子がうかがえました。つまり、頭の中だけで考えたものではなく、家庭の生活、親や兄弟との関わり合い、学校で習ったことなどをあわせて自分が思ったことを表現しています。経験したことを出来事としてそこにとどめておくのではなく、経験そのものから自分の考えを入れて文章を書いていることが介護の学びをより深めること、より高めることにつながります。

感受性豊かな若い人が一生懸命考えたということはこれからの社会にとって、介護の世界にとって非常に価値ある大切なことと考えます。

これからもたくさんの経験を積み、学び、考えることを大切にして、学業に励んでください。

【第9回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入賞者】

<高校生の部>

○最優秀賞 作品名「『福祉』について考えた事」

板木 光輝さん（鹿児島城西高等学校 1年）

○優秀賞 作品名「模索」

清水 媛乃さん（兵庫県立日高高等学校 3年）

<中学生の部>

○奨励賞 作品名「介護の魅力を伝えるために

—これからの介護や福祉に関する僕の意見—

後藤 市汰さん（遠軽町立南中学校 1年）

以上

〈本件に関するお問い合わせ先〉

一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会

（「『介護福祉のみらい』作文コンクール」事務局）

TEL : 03-3553-2896 FAX : 03-3553-2897 Mail:info@nkfk.jp